

2019年12月18日

報道機関 各位

新潟大学
新潟工科大学

**新潟大学災害・復興科学研究所と
新潟工科大学風・流体工学研究センターが
連携協定を締結**
—増加する強風・吹雪災害の関する防災研究を推進—

新潟大学災害・復興科学研究所（所長 河島 克久）と、新潟工科大学風・流体工学研究センター（センター長 富永 禎秀）は、両者の組織的な連携を強化し、近年増加する強風災害や吹雪災害のメカニズム解明、リスク評価や予測、防災減災技術に関する研究を推進するため、下記のとおり協定を締結することとなりました。

また、当日は協定締結式のあと、国内最大級の風洞実験装置も公開いたします。

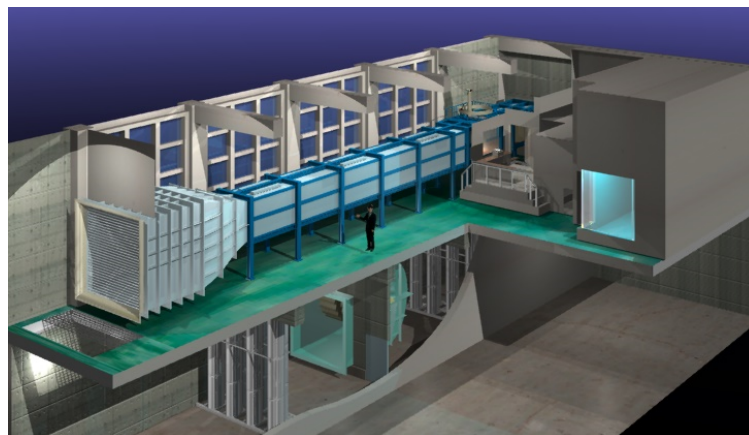
報道機関の皆さまにおかれましては、ぜひ取材いただきますようお願いいたします。

<協定式詳細>

■日 時 2019年12月25日（水）10：00～10：30
協定締結式、報道機関を対象とした質疑応答
施設公開（国内最大級の風洞実験装置）

■会 場 新潟工科大学 会議室1（新潟県柏崎市藤橋 1719）

■出席者 新潟大学災害・復興科学研究所 所長 河島 克久
新潟工科大学風・流体工学研究センター センター長 富永 禎秀
ほか関係者



国内最大級の風洞実験装置（新潟工科大学）

＜連携協定の趣旨＞

多種多様な自然災害に見舞われる日本列島では、災害をもたらす自然現象の理解を深めて防災減災に役立つ研究を進め、さらに災害からの復興に寄与することが大学や研究機関に求められています。近年は、大型で強い台風（昨年9月の台風21号、本年9月の台風15号や10月の台風19号等）、爆弾低気圧、竜巻などの極端気象に起因する強風災害や吹雪災害が多く発生しており、地球温暖化の影響によるこのような気象災害の増加が懸念されています。このため、専門分野や所属機関の異なる研究者が迅速に連携して災害調査や対策研究に当たるための協力体制を築いておくことが重要となっています。

新潟大学災害・復興科学研究所は、40年を超える歴史を有する日本海側唯一の総合的災害研究機関であり、新潟県をはじめとする積雪地域における各種災害、復興支援策並びに防災・減災に係る調査研究を長年に亘って実施してきました。新潟工科大学では、開学時より国内最大級の大型風洞実験装置（1.8m(幅)×1.8m(高さ)×13.0m(長さ)）を設置し、地域の「風」の問題に着目した研究に取り組んできており、風に関する課題解決と人材育成を進める地域の拠点となるべく風・流体工学研究センターが2018年に設立されました。両研究機関は、この協定に基づき、両者の組織的な連携を強化し、強風災害や吹雪災害のメカニズム解明、リスク評価や予測、防災減災技術に関する研究を推進します。さらに、研究成果の社会還元および教育、人材育成等を通して、災害に対して適応能力が高い強靱な社会の構築に貢献していきます。

※ ご取材いただける際は、恐縮ですが事前に新潟工科大学キャリア・産学交流推進課（担当：内山・高橋）までご連絡願います。

本件に関するお問い合わせ先

新潟大学研究企画推進部研究推進課
萩原 敬史
TEL: 025-262-6602
E-mail: t-hagiwa@adm.niigata-u.ac.jp

新潟工科大学キャリア・産学交流推進課
内山 一穂
TEL: 0257-22-8110
E-mail: uchiyama@adm.niit.ac.jp